



十二源氏袖鏡

一

共十二



光源氏物語乃村上天皇女十文

坊傳さいわんよ上東門院へめつこのなる

ゆうしゆゆふとあつひのむせたまのいふゆふ

いつか行ごわやうの物さうりはあきまじいなる

あきしく流らあひてなまらふこふよりあ

初は信らまなれま石山よ通敷してじゆ

をいのりりにおゆ八月十六日の月湖

水よりつめて心乃をみまらまは物説の

風掃るたうのいなる話書たるめくわ

天台六年暮は庵よりしてまじのつをな



ゆきめ桐つゆりわさのうきつりふらふら
も中もも善は業は養とゆうらんみはく
甲斐ふれととてそ名と世式尸と先され
けりとなは但はけりうらる業年の年物
阿保親王のゆき母を候豆内親王其お
たふいたく又かてらきよげよるまるとうま
そふきりし事ととてそむく光源氏君
といふりおきわかのたしわのりゆめまひ
系五條乃二人は后よ志のらとまひりよ
ううつて薄やれ女院院月秋の内侍乃

かみとありせわされのこあは次なきけとうり
髪をしまよをあくよせあれとなんく
或説西乃文れた大后言明公ハ醜醜の西つ
のゆきにそく一世乃源氏也みめうら人よす
これ詩歌管法よらうらまわしと源氏と
ゆひわらふよとめをらあうわて業上と式尸
うらよよせくうまひかり高明公たさいる
そゆふうつされてけりへおむじと事
ありと源氏流ありととせと事
あふとんきり海とふらとてか

りせらよあはれをさやか又さうけなくしてさや
 をわさうよついでて人の心はつげあまのりあ
 りとあゆむ物のみさげをさうけし心をさ
 五十四指の月よゆさく女乃よさあ記さ
 まいとあうり三日代のうちよ君も長と
 身は河をせわらと流乃せさうあれえ後
 弦の各詩奇れ物もむす時よつげてさと
 所へめ物よさくさくさくさくさくさくさく
 詞いまれ花のあくれさくさくさくさくさく
 らる林の月さ里の外まてら後ならん
 らくは流えてゆくあはれ神仏もあくる
 らくまよとた観音れ流利甘さくさくさく
 事よ思ひつくとさくさくさくさくさく



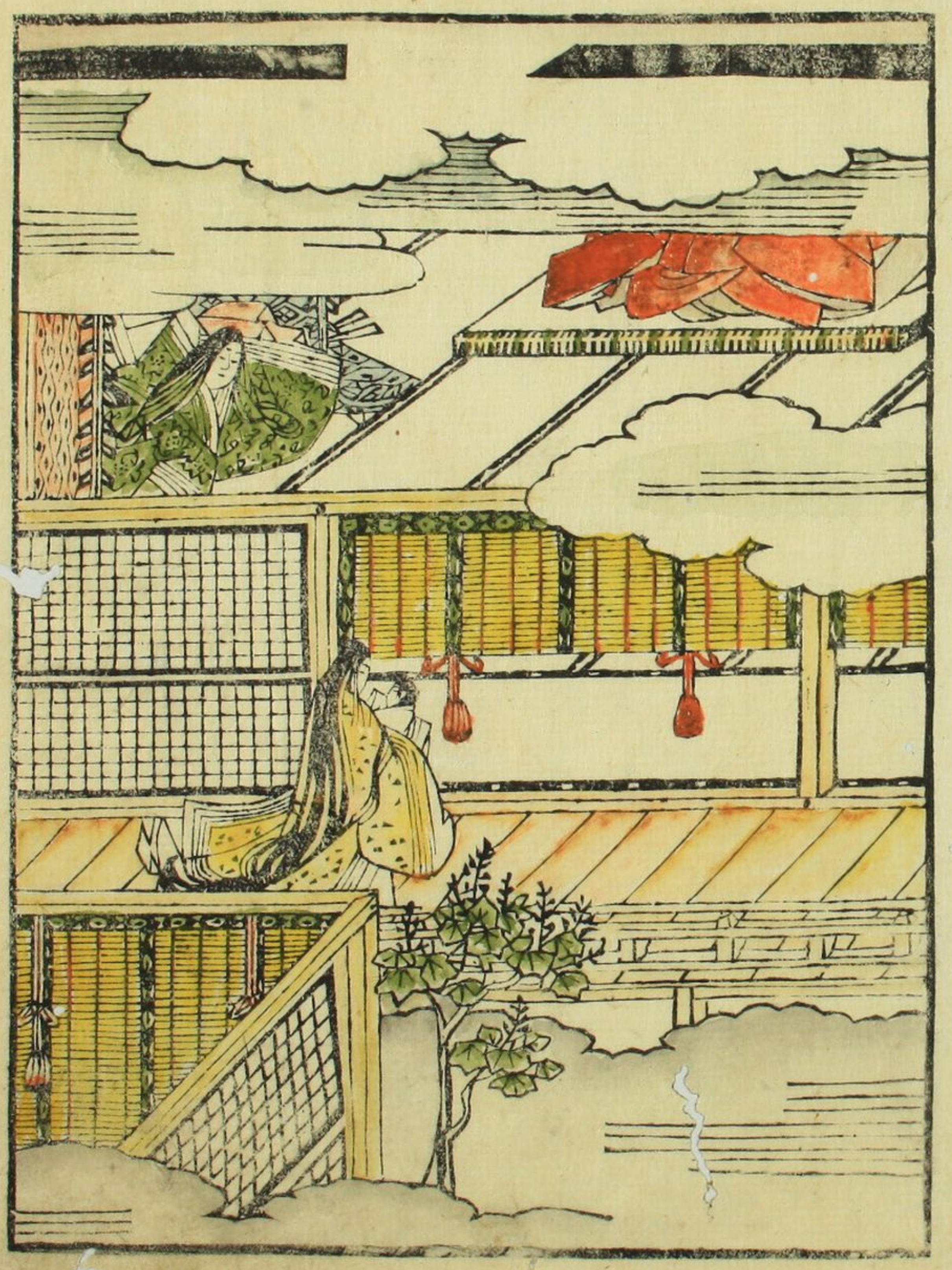


源氏袖鏡

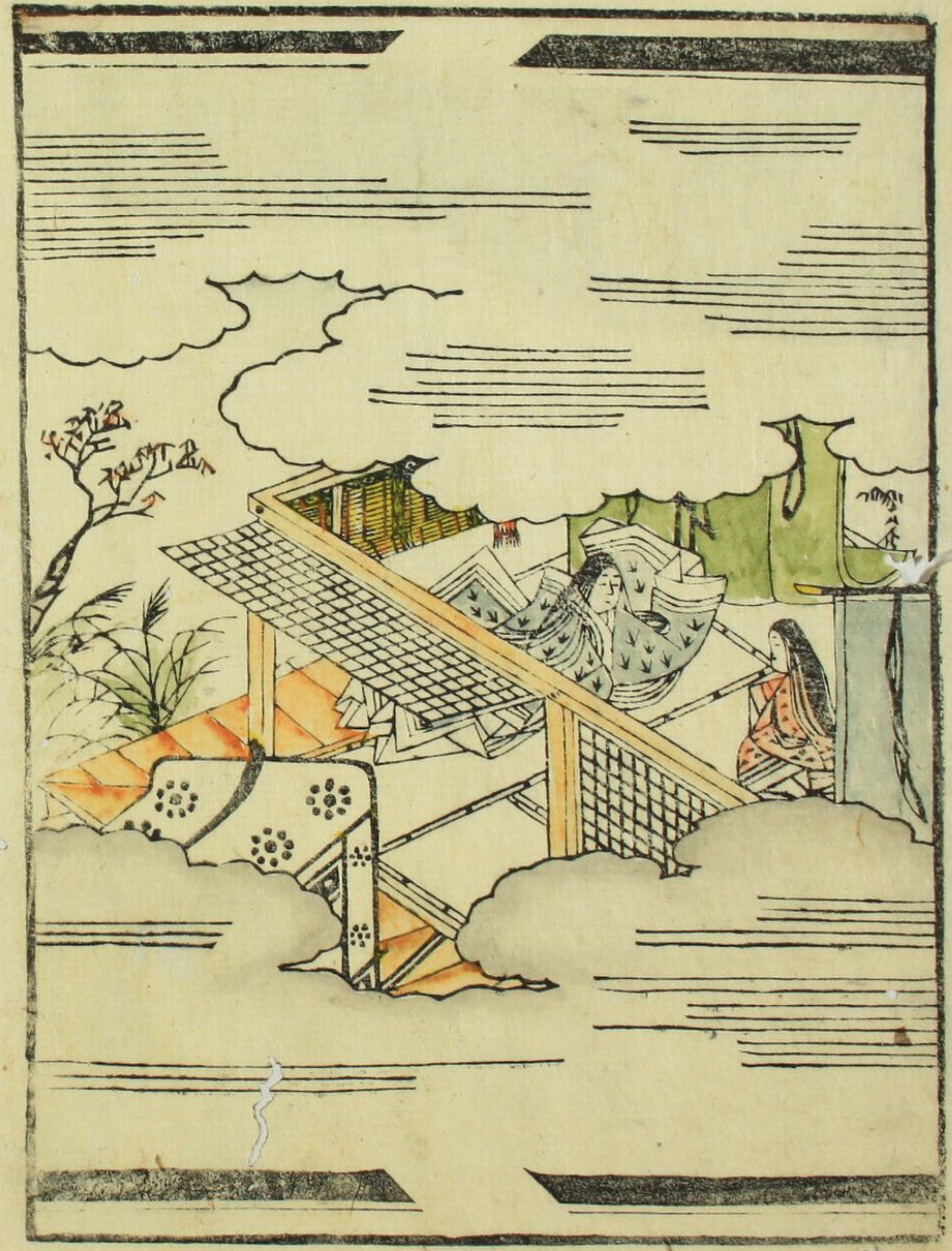
一桐臺

さうわつふい内裏五舎乃ま一なりきけい
 とつふも相つかこみ金とふ梅つかなりつは
 ぬつふきりつかのんまりれ臺也るよと大
 ともつこの所何りまらわけみよに女
 更衣あまききあふ中よやむとな
 きたにい河ぬうすれく時めさあふるなり
 こりる光源氏乃れ母ありび文衣きわつふ
 よほまふ相つかの事よは人の事よのよは

しほを桐壺と名付る上て曾と相つ不
 のみもくも也（まはら）とふは王子と（まはら）
 町んさちちとふ公卿也一人は海上人なり
 后一人まはらと申す中女と申す也
 女治ハ三位更衣ハ四位りてとて
 海まに余姉家女孫人おれお仕り取と
 久らん心と云女唐の侍とてとて
 殿上あり一の内子ハ右大臣の女侍とて
 ろん乃此殿之れを海をた君とてりり
 是もけ次の帝は成らんてはまはらとて



の君とトセる人たれお侍乃由んくになま二
 取まます女一乃又女三の言とトその次
 にまらつ下の文衣の由腰母世にあひる親
 玉れ地のこゆ子しまれあひぬとあつた光徳氏
 此中ちり三さいいとてゆさうの海さわりた
 り一どこれ及母又衣とつれきくらにまけら
 りく内市表とまうそらんり孫と由のゆり
 かく地ゆしまふいとまゆりあふうつら
 ま人のいんうおまやせやまみるまなわけ
 ありてくゆりれせんしきとのゆらくき



又いせあひくはしは海を渡る
あんなるもなれきたしうら
せあひなるはうれも打すくはえゆ
らとなくくのあへん更衣

かきわとそわうるるはうしに海

りきいれらなるなり いせ海なり きうらや せいこ海

ゆきたらしとおかたれよら
あうらうれは海をれまうそ
門のせのあいらてあうら
くのめふやもあうらうく

あやうらふたしそね
やうれきこわありま
せんうかく無くあ
更衣乃ゆれおもた
よらちてありうら
さきき夕ぐれの
とおちくてゆ
のゆえは使あ
も月夜をも
更衣の母水

抱けいの家娘と云ぬ居じみり。

文もたれく落吹じきよ目のよもふ新
うもははらうもはかしの人たそひ物
三拾り一あり 徳人とてて人の人
物しあまよふんねんてあふらひり
とめむらひ守 ながはまはぬあつ枝
もろ物もあはれあまよふらあつ
治使の家娘うこふあつていんく
なもたれあり 野分よりあつて
ちりて月歌うらりやあつていんく

きとふ川守 い守むらうきけさう富のいん
しきよ人よみりひ秋集より治使
あんとすら物よ同すうくむらの物もあつ
のよるうふあれを命娘

すむじり乃くあつてあつてあつてあつて
あつあつあつあつあつあつあつあつ

いんくあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつ

二帯本

源氏は春に申おとせしめ内膳母よ及つか
のわやく日れまよと一はと帝の女田乃宮
にくおりしよまよとつふの春よは門下あり
まうりいら源氏とたあしやうた時あまの
母の人うもく日の女よと一たりとれはうら
まのこ御あまのしりておりしりてとこの
内さふし一の姫君よは心よよとあおれつと
あのみ乃とこれやとあつしあしとあつと
けつとあのみ乃とあつとあつとあつとあつと

いあよあつとあつとあつとあつとあつと
しだらよんのあふあつとあつとあつとあつと
かおとくは願ん御字のら源氏あつとあつとあつと
けつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
とわはあつとあつとあつとあつとあつとあつと
み乃申おとせしめとあつとあつとあつとあつと
人あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
のせしとと人あつとあつとあつとあつとあつとあつと
しつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
らてはつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

めぬもあらあくるれぬ、おののちをひきよむ
まよふてくさくちかひるくはしむおの
うらておのいとうめて海にのりていもの
り

おのちをひきよむ、おのちをひきよむ
うらておのいとうめて海にのりていもの
り

おのちをひきよむ、おのちをひきよむ
うらておのいとうめて海にのりていもの
り



かたしる人そまきくし神を月の光りひ月の
 ゆりろさよるのうとあつぬ上人といふる車
 いのりてゆりわゆりあふさふさうへんりあう
 しようい人ゆらんやとらんりきとてげ女の歌
 さささぬみちちりたれいあきさるはしりたれ
 ちつ運り地の名け忍して月たたきや家
 何ぶをまきんすさすうあくおやゆぬ今
 のぬと人もしひのうさささわやふあも
 ちすす又るれぬもげと人心越うりさるも
 らささたりとれ殿上人かさうたりる

とるりそ吹雪舟一ひせり〜あきくさうら

よほりふゆふけし〜あき

うけよなほら〜あき

さし〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

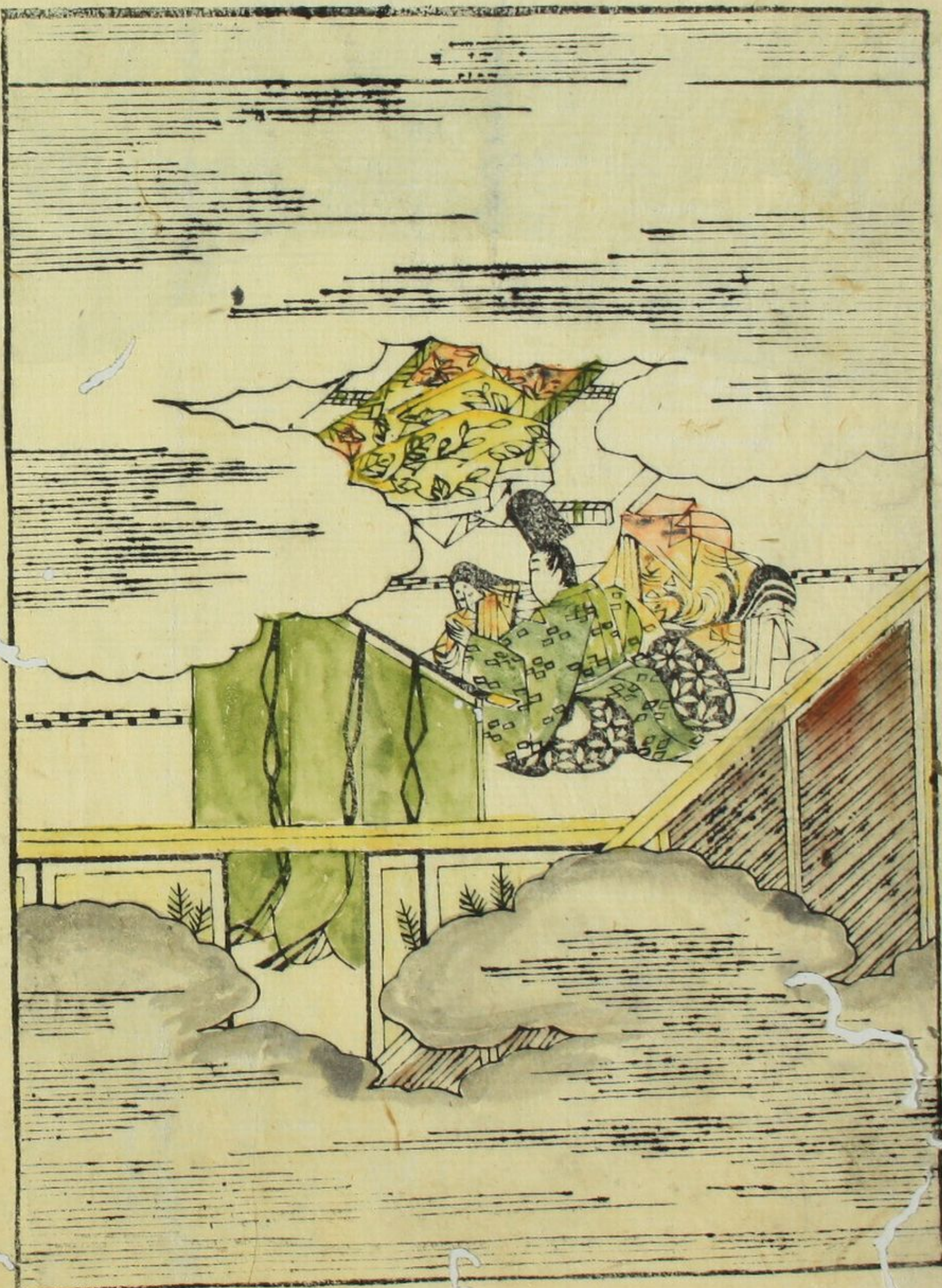
あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

あき〜あき

ふらふらよのぞきわたるいしのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた
あふくさのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらたのうらた



しつちあせし人あわしよりちりこいしはか
あひまのいしりおひちをいしりしはしに
のあしあしちりちりあし人あわしたのま
しあしあしちりちりあしあしちりちり
りちりあしちりあしちりあしちりあしちり
あしちりあしちりあしちりあしちりあし
あしちりあしちりあしちりあしちりあし
あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

あしちりあしちりあしちりあしちりあし

州のあやうきなまはらうらうらうのわらわ
みくわあうわあうらう
あうらうあうらうあうらうあうらう
あうらうあうらうあうらうあうらう
あうらうあうらうあうらうあうらう



